

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月21日

【評価実施概要】

事業所番号	1290100039		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホームきらら都町		
所在地	千葉県千葉市中央区1212-4 (電話) 043-382-3788		
評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成20年1月17日	評価確定日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(平成19年11月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤4人, 非常勤4人,	常勤換算7.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(300,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,500 円	

(4) 利用者の概要(平成19年11月30日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	3	要介護4	0		
要介護5	1	要支援2	0		
年齢	平均 82歳	最低	73歳	最高	90歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	まくはり南クリニック、ベイ・デンタルクリニック
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは南面が開けた日当たりの良い閑静な住宅地に立地している。グループホーム専用に新築され、各部屋にスプリンクラーを設置するなど安全面にも配慮が行き届いている。「人が、心が、すべて」との基本理念の下、「開かれたグループホーム」を目指し、暖かい生活の場・互いに認め合える生活・入居者本位のケア・地域住民との交流を運営方針とし、入居者の認知症の進行を防ぐことを重視した介護の実践に取り組んでいる。職員が生き生きと明るく利用者と共に過ごしている姿が印象的であった。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が始めての外部評価受審である。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ホーム長は、自己評価を全職員に記入させ、グループホームに求められていることを認識させた。職員が自己評価をすることによって多くの気づきもあったとのことである。この評価結果を次回の全体ミーティングで取り上げ実践に活かしたいとしている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会長・民生委員・中央区福祉事務所職員などの参加を得て、事業報告・グループホームとは・運営課題などをテーマとして2回開催した。1回目の運営推進会議を機に自治会長が「都地区・高齢者福祉施設との連絡会」を立ち上げてくれ、地域との連携に役立っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時などに家族からの話を良く聴くようにしており、意見など言いやすい雰囲気を作っている。家族からの要望などはリーダー・ホーム長に報告し対応すると共に毎月の全体ミーティングで取り上げ、運営に反映させる仕組みが出来ている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム長は地域との関りの重要性を良く認識し、毎月自治会長や民生委員と面会している。都東自治会の盆踊り、敬老会、避難訓練などへの参加や隣接の山百合幼稚園の運動会に参加している。近隣の有料老人ホームと合同敬老会を実施し地域の老人にも参加していただくなど、積極的に地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	「人が、心が、すべて」との基本理念の下、 「開かれたグループホーム」を目指し、暖かい 生活の場・互いに認め合える生活・入居者本 位のケア・地域住民との交流を運営方針とし ている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念 の実践に向けて日々取り組んでいる	「介護者としての心構え」を独自に作成し、 尊厳とは、その人らしい生き方とはなど一人 の人間として掘り下げて観察すること・「与 えられる生活」ではなく「参加型の生活」に繋 げる介護とはなど、毎日の申し送り時や毎月 の全体ミーティング時に理念の共有と実践に 向けよく取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員 として、自治会、老人会、行事等、地域 活動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	ホーム長は地域との関りの重要性を良く認 識し、毎月自治会長や民生委員と面会してい る。都東自治会の盆踊り、敬老会、避難訓練 などへの参加や隣接の山百合幼稚園の運動会 に参加している。近隣の有料老人ホームと合 同敬老会を実施し地域の老人にも参加してい ただくなど、積極的に地域との交流に努めて いる。		ホーム長は、更に地域の方々に受け入れ ていただけるように、ホーム入居者が散歩 に行く都町公園の清掃のお手伝いを考えて いるとのことである。その実施方法などを 話し合い、取り組むことを期待したい。
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	ホーム長は、自己評価を全職員に記入さ せ、グループホームに求められていることを 認識させた。職員に聞くと、多くの気付きも あったとのことである。この評価結果を次回 の全体ミーティングで取り上げ実践に活かす とのことであり、今回の評価に対する一連の 取り組みは評価出来る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長・民生委員・中央区福祉事務所職員などの参加を得て、事業報告・グループホームとは・運営課題などをテーマとして2回開催した。運営推進会議を機に自治会長が「都地区・高齢者福祉施設との連絡会」を立ち上げてくれ、地域との連携に役立っている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の研修会やグループホーム連絡会時に出席される市の担当者と話し合っている。又、手続き更新時に利用者を連れて行くなど、社会援護課や介護保険課の方と連絡を取るよう工夫している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームでの暮らしぶりや職員紹介など写真入の「きらら通信都町」を毎月家族に送っている。金銭管理はレシートと出納帳のコピーを送っている。何かあればいつでも電話をし、家族も一緒に介護をしている気持ちを持っていただけるようにするなど家族との連絡に工夫をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに家族からの話を良く聴くようにしており、意見なども言い易い雰囲気を作っている。家族からの要望などはリーダー・ホーム長に報告し即対応すると共に毎月の全体ミーティングで取り上げ運営に反映させる仕組みが出来ている。家族会は年2回開催している。		ホーム長は、家族会で家族だけで自由に話し合う場を設け、家族の率直な意見などを引き出し、ホーム運営に反映させたいと考えている。是非このことを実現することを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホーム長は、スタッフもクライアントであると考えており、兎に角職員と良く話し、良く話をさせるよう工夫している。浮いているなどと思われる職員がいれば一緒に食事をして悩みを聞くなど離職者を出さないよう工夫しており、今のホーム長に変わって半年間離職者はいない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
		職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム長は、夫々の職員に教育(OJT)・レクレーション・発注献立・環境衛生と業務分担制を敷き、職員に考えさせ、自主性を重んじて職員を育成している。現場でのOJTとともに、毎月の全体ミーティングで「今のケアに甘えることなくサービス向上のために勉強しようよ」と呼びかけ、テーマを決めて研修もしている。職員が生き生きと明るく利用者と過ごしている姿に良く表れている。		
		同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は、県と市のグループホーム連絡会に必ず出席している。都介護支援専門研究会など地域でのネットワークも出来つつある。職員も是非交流の機会を作りたいと考えているが、相手もあることであり実現していない。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
		馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学時に家族とともに利用者にホーム内の生活をよく見ていただき、体験入居もしていただくなど納得して入居していただくよう工夫している。家族の来所は大歓迎でありいつでも自由に来ていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	全盲の方がお皿拭きをするなど、出来ることは一緒に手伝っていただいている。職員が利用者から広告紙でゴミ箱作りの折り紙を教えていただいたり、美空ひばり好きの利用者とは「柔」と一緒に唄いながら入浴するなど共に支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>心身の状況、本人・家族の意向、生活歴、生活環境から暮らし方の希望や意向を引き出すようにしている。意志確認の出来ない場合は、五感を使い言葉や表情、しぐさから真意を推し量っている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人の意思・意向を尊重し、身体状況の確認と家族の意向も踏まえて職員全員で意見交換やカンファレンスを行い、介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>月に一度カンファレンスを開催し、全入居者の状態を全職員で話し合っている。状態に変化があるときは随時見直しを行いプランの変更をしている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居者の状態に応じた通院。送迎などに柔軟に対応しているが、グループホームの多機能性を活かすという意味合いが難しく、これからの課題として検討していく方針である。</p>		<p>町内には高齢者が非常に多いとのことであり、認知症介護のプロとして、町内での認知症への理解促進や認知症介護の相談に応じるなど、当ホームの特性を活かす取組みを期待したい。</p>

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医への通院介助を行い、入居者の希望に応じて対応している。また、協力病院との連携を図り関係を密に結んでいる。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時にご家族とターミナルケアについて、出来ることと出来ないことを納得していただくようよく話し合っている。重度化した場合については、医師や家族と方針を話し合っている。</p>		<p>終末期を迎えた利用者をまだ経験していないので、知識としての準備にとどまっているとのことである。いずれ直面する大きな課題であり、特に終末期のあり方、対応について関係者全員で話し合い、方針の統一と共有化を図っておくことを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>入居者への声掛けについては尊厳を傷つけないように対応に配慮している。居室へ立ち入る際は、本人の許可やノックをして入室することを基本にし、ミーティング時に随時話し合いを行い、十分な気配りを心がける体制が整っている。記録は外部漏洩の無いよう鍵のかかる保管庫で管理されている。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的には個人のペースと希望・意思を尊重してその人に合わせた生活の組み立てをしている。但し、薬の服薬時間のように利用者の健康上守るべきものがある場合は、その時間に合わせるようにしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居者の好みをメニューに取り入れ調理から片づけまで入居者と共に行い全職員と一緒に会話を楽しみながら時間をかけて食べている。職員はさりげなく食事介助を行っている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入居者の希望に合わせて入浴できるように対応しているが、日中人員の余裕のある時間に入浴してもらっている。基本的には一日二人を時間を掛けてコミュニケーションをとりながらゆっくり入浴介助している。</p>		<p>見守り、介助量の多い入居者が多くいるので、大変だとは思いますが、時間を固定することなく、ひとり一人の希望に合わせて入浴を楽しんでいただく為にはどのように対応すべきか、今後の課題として、全職員で考えていくことを期待したい。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>個別対応、アクティブの工夫で生きがいの見出せるケアを心がけている。個々の生活歴を活かし洗濯物たたみ、食卓のセッティング、食器拭きなど入居者に手伝いを頼み、必ず感謝の言葉を伝えている。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>外出は入居者の生活の幅を広げ、生活リハビリにもなり、散歩、買い物を通じて身体機能低下防止に努めている。外食に出かけることもあり、入居者の楽しみになっている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>夜間以外施錠はしていない。徘徊癖のある入居者の場合、職員が察知して、さりげなく声かけて付き添っている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方たちの理解と協力をお願いして、年二回消防署の指導を得て実施している。防災マニュアルを作成し避難経路の確認と誘導方法の徹底を図っている。又、三日分の備蓄食料・水・毛布の保管をして、いつでも持ち出せるよう目のつく所に置くなど災害対策には万全を期している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チャートを用い、一日を通してその経過を追って健康チェックをしている。特に水分摂取に気を配り、リビングでいつでもお茶が飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じさせる装飾品や花が飾られ温かみのある雰囲気をかもし出している。不快な音やひかりも無く清掃が行き届き清潔である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の希望に添って支援している。使い慣れたものを持ってきていただき、本人の「場所」という落ち着ける場所と認識できる空間であるように心がけている。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。